

地域支えあい研修

令和7年7月16日(水)
保土ヶ谷区役所総務課
危機管理・地域防災担当係長 板倉

はじめに

政府の地震調査委員会の報告によると
横浜市が今後30年間に震度6弱以上の揺れ
に見舞われる確率は・・・ 38%

横浜市の地震被害想定（元禄型）による
震度分布では保土ヶ谷区内は震度6強また
は震度6弱の地域が大部分を占める。

想定震度

H24年度の想定 地震被害想定マップ (元禄型関東地震)

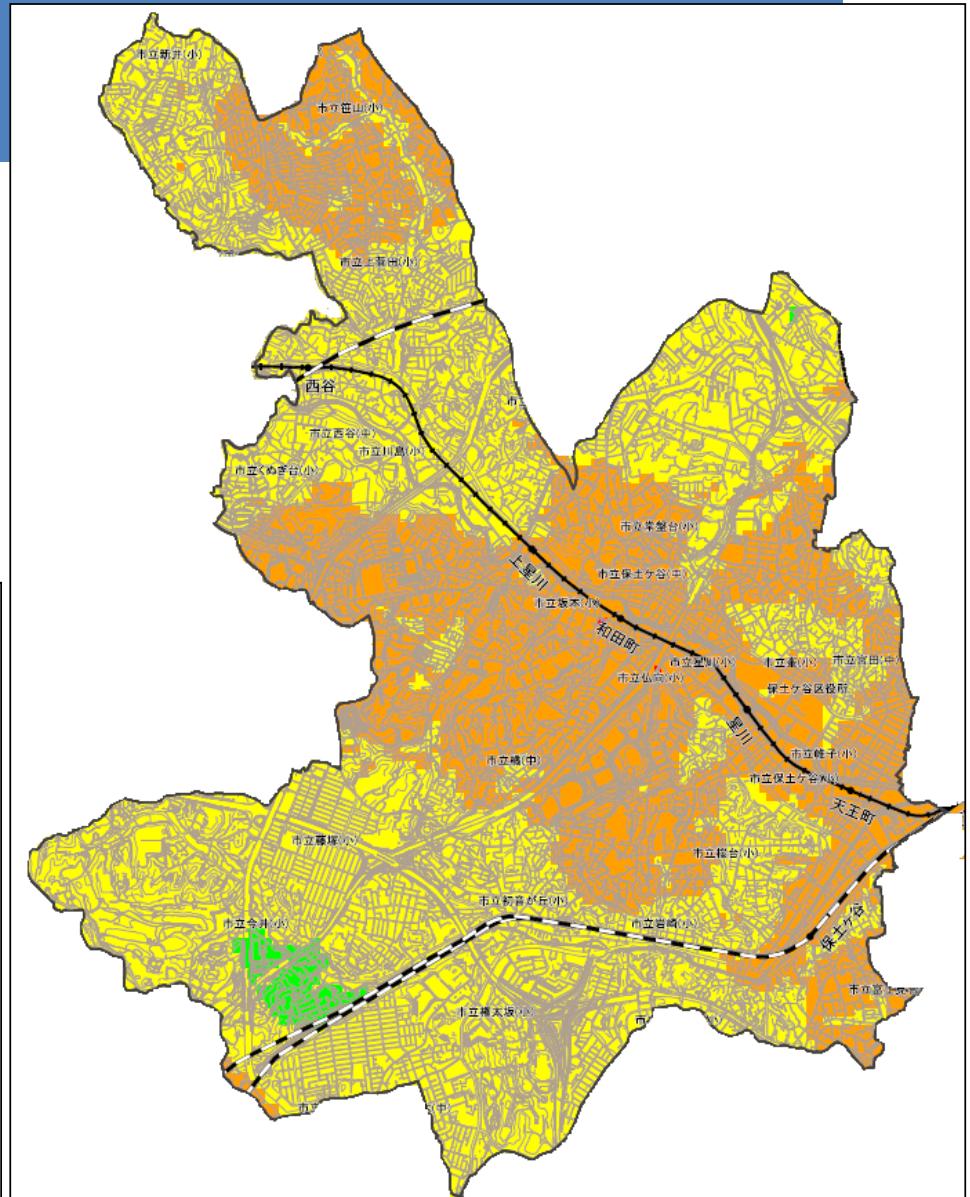
『わいわい防災マップ』

- ①想定震度
 - ②液状化危険度
 - ③焼失棟数
- を確認できます。



震度階

- 震度7
- 震度6強
- 震度6弱
- 震度5強
- 震度5弱
- 震度4





被害想定①

- 地震想定：元禄型関東地震 冬 18時（平日） 風速6m/s
- 人的被害：死者 170人 負傷者 1,199人 重傷者 143人
(建物倒壊、急傾斜地崩壊、火災による被害の合計)
- 建物被害：揺れによる
液状化による
急傾斜地崩壊による
火災による消失棟数
- 全半壊 計9058棟
- 全半壊 計54棟
- 全半壊 計44棟
- 計3,753棟

被害想定②

● ライフライン施設被害

上水	：断水率	19.7%	17,808世帯
下水	：被害率	4.37%	3,953世帯
電力	：被害率	13.7%	12,414世帯
都市ガス	：被害率	100%	76,495世帯

● 全世帯復旧目安（参照：内閣府防災情報（首都直下地震想定））

上水	：30日
下水	：上水が復旧次第確認
電力	：6日
都市ガス	：55日

被害想定③

●避難者数(18時)

区名	項目	1日後	4日後	1か月後
保土ヶ谷区	避難者数	30,066人	26,842人	18,601人
	避難所生活者数	—	17,447人	12,091人

上段：任意の避難先(親せき宅等)などを含む、総避難者数

下段：地域防災拠点、福祉避難所など公的避難場所への避難者数

避難行動①

地震が起きたら…

地震発生

① その場にあった身の安全

- 身を守る
- 出口の確保
- キーをつけたまま道路の端に止めて避難

② すばやく火の始末

- 火が出たら大声を出して周囲に知らせ協力して初期消火

③ となり近所の助け合い

- となり近所に声をかけ合い助け合う

まずは
在宅避難
を検討

日常に近い生活

- ①プライバシーの確保
- ②スペースの確保
- ③好みのあった備蓄品

救援物資等は地域防災拠点で受取り
(運営のお手伝い必要)

地域防災拠点の
スペースは限られている

自 宅

自宅に危険あり

外へ避難検討

自宅に危険なし

在宅避難

自宅建物に火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難の必要はありません。
(状況に応じて対応してください)

避難行動②

落ち着くまでの
様子見

いっとき避難場所 近所の公園・空き地など

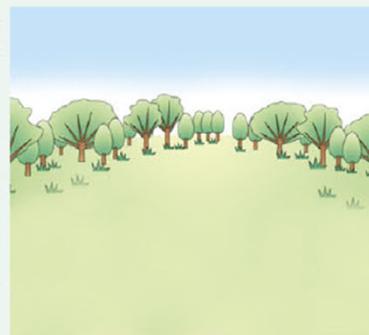
広域避難場所や地域防災拠点へ避難する前の中継点で、まず避難して様子を見るために地域住民が集まる場所（小公園など）です。
いっとき避難場所は、自治会・町内会が選定します。



火災から逃げる場所

広域避難場所 大火災時に避難する場所

地震による火災が多発し延焼拡大した場合、熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難する場所です。
(大きな公園やグラウンドなど)



助け合い避難場所

地域防災拠点を補完するための任意の施設（自治会・町内会館等）で、地域住民の自助・共助によりあらかじめ避難対象者や運営方法等を検討し、自治会・町内会が地域の実情に応じて任意に設置します。



任意の避難場所

避難行動③

地域防災拠点
震災時の避難場所

地震などによって家が倒壊または焼失し、住む場所がなくなった人が一定期間避難生活を送る場所です。

※現在、保土ヶ谷区内では市立小・中学校等の27か所を指定しています。(裏面マップ参照)

地域防災拠点の役割

- 家が倒壊した場合などの一時的な生活場所
- 防災資機材を使った救助・救出活動
- 家族の安否確認
- 食料、水、救援物資などの配布場所(限りがあります)
- 生活情報の提供場所

(例)

窓ガラスの飛散防止
学校の体育館、校舎等に飛散防止フィルムを貼付けています。

防災備蓄庫(食料・水など)

ヘルプサイン(校舎屋上に文字で学校名を表示しています)

避難場所(体育館など)

ハンドマイク

まかないくん(小学校)

ガスかまどセット(中学校)

デジタル移動無線機、トランシーバー、特設公衆電話

エンジンカッター

ハマッコトイレ

防災訓練に参加しましょう!

平常時には、地域防災拠点管理運営委員会が中心となって、訓練を実施しています。積極的に参加して、防災資機材の取り扱いや避難生活でのルールなどを確認しましょう。

飲料水の確保

飲料水の確保のため、災害用地下給水タンク・緊急給水栓・受水槽などを活用した飲料水確保の整備と、水缶詰の備蓄を進めています。

- ・地域住民が主体となって運営する
- ・在宅避難者も物資などを受け取れる
(要運営協力)

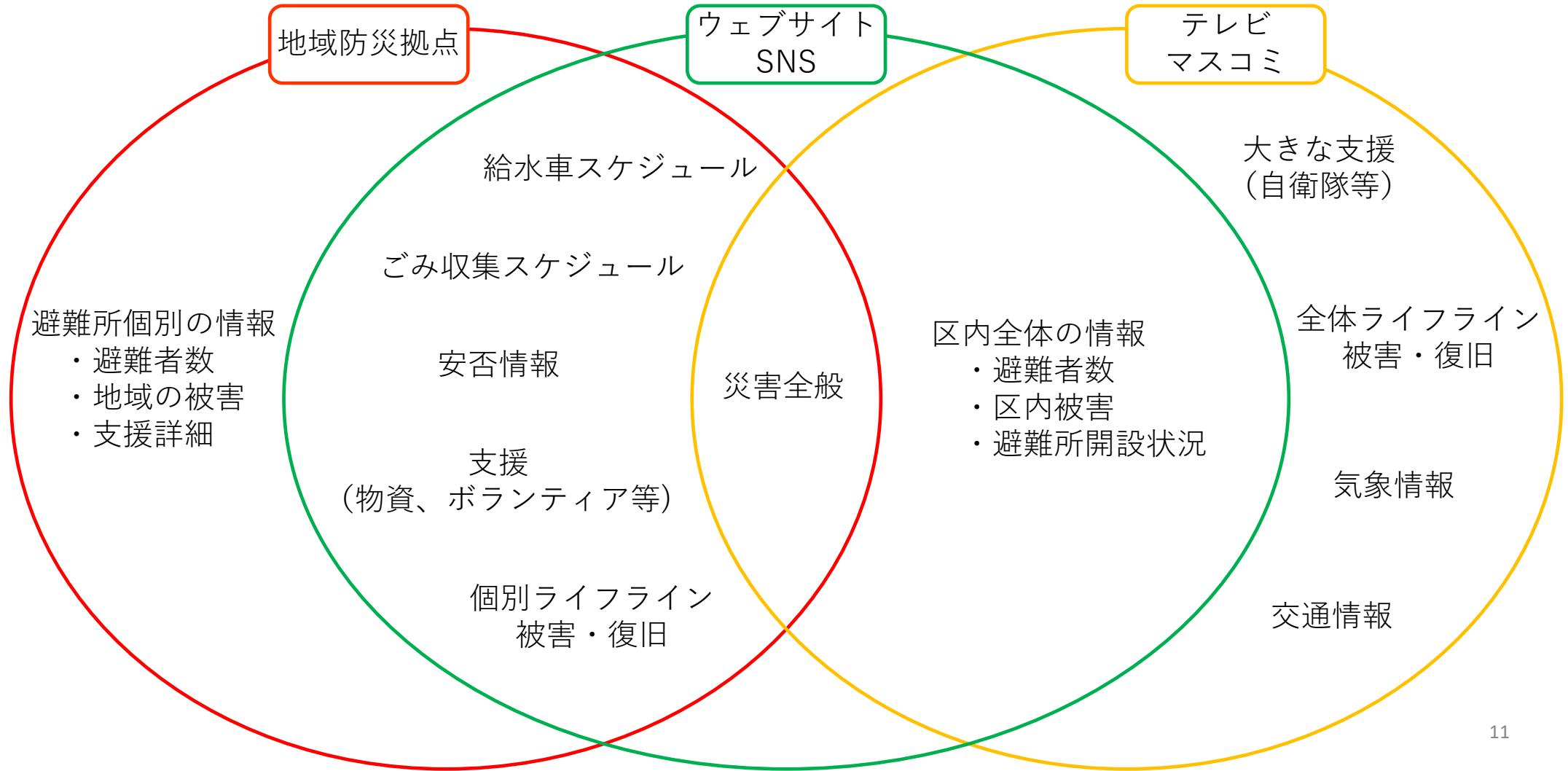
保健師等が要否を判断
@地域防災拠点

福祉避難所

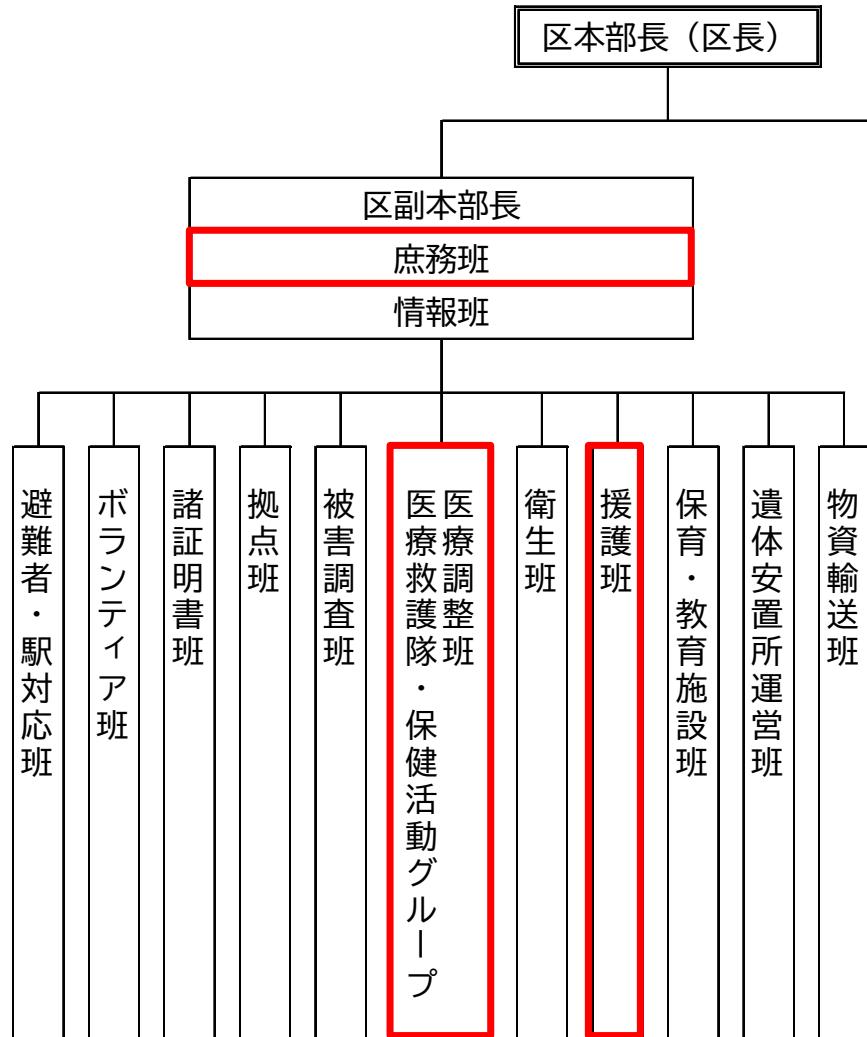
地域防災拠点に避難した人で、介護や障害の状況によって避難生活が困難な場合は、福祉避難所として指定している福祉施設に移動していただくことがあります。



情報伝達



公助（区災害対策本部組織）



●庶務班：総務課

区本部全体の運営、調整に関すること

●医療調整班：福祉保健課

医療救護隊、保健活動グループと連携
医療、保健衛生等に関すること

●援護班：高齢・障害支援課

要援護者支援、福祉避難所等に関すること

福祉避難所

●概要

地域防災拠点での生活が困難と判断された方のための二次的な避難所

協定締結事業者が開設

高齢者施設
障害者施設
地域ケアプラザなど



地域防災拠点にいる要援護者等から
保健師等が判断した人を受け入れる。

●行政による支援

- ・応急備蓄物資の配布（要申請）
- ・災害時優先携帯電話（要援護者の受入れ、物資の要請などの連絡）
- ・福祉避難所情報共有システム（区本部との連絡調整用システム）
- ・緊急通行車両（福祉避難所への人員や物資の輸送等に使用）
- ・福祉避難所連絡会（年1～2回、区内福祉避難所の情報交換等）

地震防災戦略

★福祉避難所の受入拡充及び備蓄品の充実

高齢者や障害者など配慮を要する人が避難しやすいよう、避難所環境を整えるとともに、社会福祉施設等との連携による福祉避難所の受入拡充や、民間宿泊施設等を活用した避難先の確保を進めます。あわせて、介護食など避難者の状態を考慮した備蓄品の拡充も行います。



刻み食



刻みトロミ食



ミキサー食

取組指標	①福祉避難所協定締結施設数 ②介護食の備蓄		
	直近の現状値	R11目標値	R15目標値
①	557施設	600施設	620施設
②	検討	全施設にいきわたる量の備蓄（20,000食）	更新

★妊産婦・乳幼児の避難環境向上

妊産婦・乳幼児が避難しやすいよう避難所環境を整えるとともに、一定の配慮が必要な妊産婦・乳児のための母子専用型福祉避難所（仮称）を確保します。

取組指標	母子専用型福祉避難所（仮称）の確保		
	直近の現状値	R11目標値	R15目標値
	検討	9か所	1区1か所程度

★福祉避難所等の運営等協力者の確保

福祉避難所等の運営協力者を確保するため、ボランティアとの協力体制等の仕組みづくりを進めます。

また、福祉避難所等への自力避難が困難な人の移動手段について、民間事業者等との連携を進めます。

取組指標	①ボランティアとの協力体制の構築 ②民間事業者等との協定締結		
	直近の現状値	R11目標値	R15目標値
①	-	体制構築及び訓練	推進
②	-	協定締結及び推進	推進

参考：在宅避難リーフレット

保土ヶ谷区在宅避難リーフレット

- ①食料や日用品などの備蓄品や目安量
 - ②家具の固定など家庭内での安全対策
- など



自宅や周辺に危険がない場合、
自宅でストレスの少ない避難生活を送る
「在宅避難」を検討しよう！

保土ヶ谷区

在宅 避難

リーフレット

～災害時も日常に近い生活を送るために～

在宅避難は、プライバシーの保たれた住み慣れた環境で生活できるため、ストレスの少ない避難行動です。物を持ち出す必要もなく、冷蔵庫の食料もそのまま使うことができます。できるところから在宅避難の準備を始めましょう!

避難先による環境の違い

避難所(地域防災拠点(区内小中学校等27か所) 風水害時の避難所(地区センターなど)	在宅避難 (自宅)
狭い 確保できるスペースは一人当たり2帖(縦3m×横1m)程度です。	いつもどおりの生活
無い 多くの避難者と一緒に過ごすことになります。	いつもどおりの生活
避難所の備蓄品など クラッカー、保存パック、水など 限られた種類の備蓄品しかありません。 避難する際は自宅の備蓄品を持参してください。	好みに合った備蓄品 好みに応じて自分で準備した備蓄品で生活できます。 ※在宅避難者は地域防災拠点で物販や情報を見ることがあります。
トイレ 屋外に設置されている共用の仮設トイレを使用します。	自宅トイレ いつもどおり使用できます。 ※洪水・甚大な豪雨時はトイレパン等を使用します。
ペット 避難所では多くの避難者と一緒に過ごすことから、原則、ペットを避難所内に入れることはできません。	いつもどおりの生活

参考：風水害 洪水

『わいわい防災マップ』



洪水ハザードマップ

想定条件：24時間で390mm

市内最大24時間降水量：306.5mm(2014/10/5)

2つの河川に沿って、
浸水想定区域が広がっています。

- 帷子川
- 今井川



参考：風水害 内水

『わいわい防災マップ』

※内水は想定浸水深の詳細確認可能



内水ハザードマップ

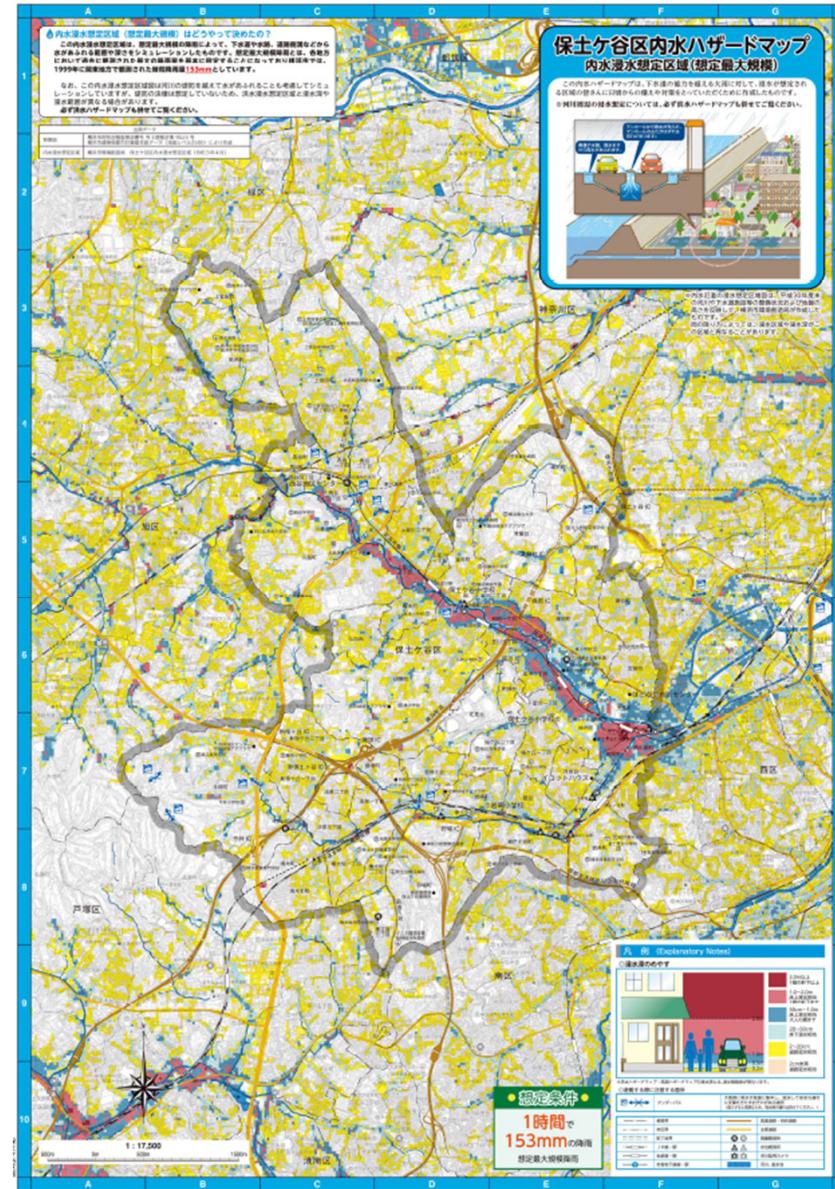
想定条件：1時間で**153mm**

市内最大1時間降水量：**92.0mm**(1998/7/30)

①2つの河川に沿って、
浸水想定区域が広がっています。

- 帷子川
- 今井川

②区内全体の周辺より低い土地に
浸水想定区域が広がっています。



參考：風水害 高潮

『わいわい防災マップ』

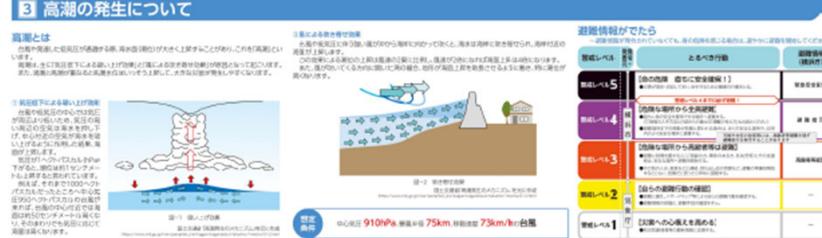
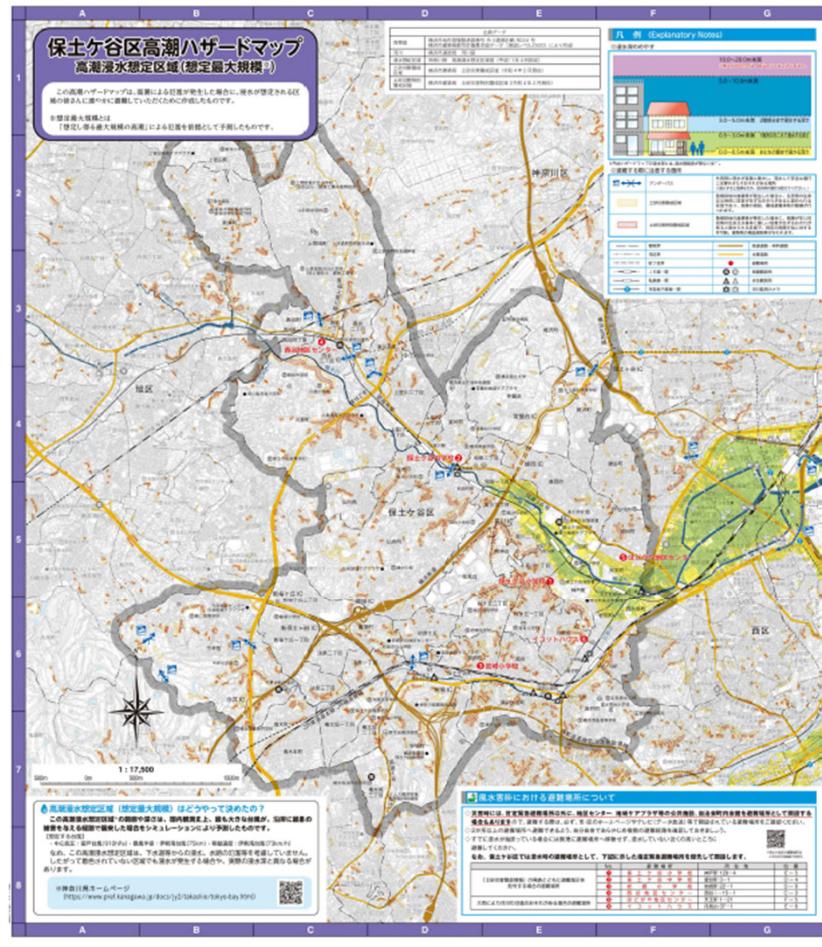


高潮ハザードマップ

想定条件：国内観測史上最強クラスの台風

- ①中心気圧：**910hPa**（室戸台風）
 - ②暴風半径：**75km**（伊勢湾台風）
 - ③移動速度：**73km/h**（伊勢湾台風）

主に帷子川に沿って、
浸水想定区域が広がっています。



参考：風水害 土砂災害

『わいわい防災マップ』



土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域

崖崩れが発生した場合に、
周辺住民に被害をもたらすおそれのある区域

一部対象区域では、
土砂災害警戒情報の発表で
避難指示が発令されます。

